

那賀は なかなか いい かなか
那賀町の支え合う医療・介護・福祉を
目指して



那賀町は平成17年3月、5か町村が合併した面積約695km²と広大な面積を有しているため、行政手続きに不便がきたさないように本庁以外に1分庁・3支所を配置している。森林95%と林業で栄えた町であるが、木材価格の低迷により林業従事者が激減している状況にある。江戸から明治にかけて人形浄瑠璃などを上演する農村舞台が数多く残り、青年団で結成された丹生谷清流座にゅうだにせいりゅうざや那賀高校の人形浄瑠璃部により公演に華を添えている。また、最下流（本庁舎のある）には大塚製薬（株）および大塚テクノ（株）の工場があり、従業員約380人が雇用されている。

人口減少の抑制策としての定住・移住人口の確保には住宅の整備は欠かせない。これまで家賃で償還可能な戸建住宅9戸を建設してきたが、平成30年度に新たに宅地造成を進め、順次家賃で償還可能な戸建住宅等約55戸・集合住宅2棟の建設を進めている。子育て環境においても保育料・授業料の減額、18歳まで医療費の無料等を実施してきたが、今後、高校生の寮費軽減、企業社員の家賃軽減には、住所移転を条件に検討し、定住化を図っている。

徳島県那賀町長

坂口博文

message

那賀町の人口は、平成30年3月末現在8,494人、高齢化率48.1%と少子高齢化が一段と進んでいる中で、高齢者のみの世帯は48.8%の1,885戸、要支援・要介護の必要な人が約1,000人である。この方々は施設介護に併せて一人暮らしの方はもちろん、高齢者の安否情報をいち早く把握しなければならない。保健師・民生委員はもちろん、商工会や郵便局の配達員さんにもご協力をいただき、生活情報を把握していただいているところである。

那賀町には1病院と4診療所（上那賀病院・日野谷診療所・木頭診療所・北川診療所・木沢診療所）および2つの民間医院と2つの歯科医院があり、特別養護老人ホーム「水ノ花荘」ほか介護施設が6施設、介護付き高齢者住宅が2施設、また日野谷診療所に保健センター、地域包括医療センターなど、医療・保健・福祉の集合体として相生包括ケアセンターを開設、安心して暮らせるふるさと那賀町を目指して、高度医療機器の整備と医療・包括ケア体制の充実を図ってきた。

しかしながら医師・看護師不足により、日野谷診療所での入院・救急を上那賀病院に集約を余儀なくされるとともに、医療・介護の保険料が高騰し、町費（一般財源）の投入を検討しているところである。

こうしたことから、予防に重点を置いた取り組みに重点を置き、ICTを活用した地域包括ケアシステムの構築に向け地域住民のご協力も得ながら、地域でできることをも踏まえてお互いに助け合い、支えあいながら安心して老後の支援が受けられる体制づくりと医療機関の連携を図るため、医療・介護のネットワークを構築している。医師や保健師に配備したタブレット端末で、1人暮らしの高齢者・障害者や患者の健康情報を共有し、素早い予防行動や治療につないでいくことにより、医療・介護費用の抑制にもつなげていく。また今後、介護サービス事業所の参加と県内の医療機関と患者の情報も共有できる「阿波あいネット」にも参



ドローン

加を呼びかけ、在宅医療の充実や災害時の支援にもつなげていける体制の構築を目指している。

医師・看護師確保については課題も多いが、徳島県は地域枠の医師を県立病院に派遣し、各へき地拠点病院等を支援することで、医師確保の体制の充実を図ることにしている。また、隣接の阿南市にも2019年3月、拠点病院が新設開業されるので、圏域を含め、病院・医師の連携強化を推進していくことにより、地域の医療を守り、医療・介護、生活支援も住み慣れたふるさと那賀町で安心して受けられるよう、充実した地域包括ケアシステムの構築に最善を尽くしていく。

今後においても少子高齢化が進行する中で、高齢者の医療・福祉も重要であるが、人口減少の抑制策を推進し、支える側の対策も重要である。そのためには、安定して働き続ける雇用の場を基本に、若い世代が定住・結婚・出産・子育てに希望が持てる町、新しい人の流れをつくり時代に合ったまちづくりを進めることにより、人口減少の抑制を図っていく。

四国の名峰剣山の麓、自然が残る那賀川の源流から、工業団地のある最下流部まで「ドローンが飛ぶ町」那賀町は、徳島県の特区を受け現在、国の特区を申請中である。すばらしい景観を空撮し全国に発信していき、那賀町が「住む人来る人に 魅力いっぱい町」本当に「那賀は なかなか いい いなか」を実感していただきたいと思っている。